

# フォークリフト

TYPE OF INDUSTRY

# 衝突回避システム開発



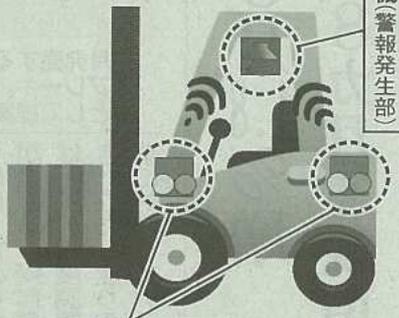
機械・航空機

## 既存機種に後付け容易

## アイベック、年度内商用化

【富山】アイベック(富山市、東出悦子社長、076・438・0808)は、既存のフォークリフトに端末を搭載し、倉庫の壁や保管物などに接触しそうな時に運転者に危険を知らせるシステムの開発に乗り出す。既存のフォークリフトに容易に後付けできる仕組みにし、古い機種の安全性も高められるようにする。年度内の商用化を目指す。

既存のフォークリフトに後付けする衝突回避システム



端末はフォークリフトの運転席上部への設置を想定している親機と、側面、後面、爪など接触を避けたい任意の場所に取り付ける子機を用意。子機は赤外線と超音波を用いて衝突を感知するセンサーを内蔵しており、障害物が近づくと親機に無線を飛ばし、親機がラ

ンプの点灯と警報によって運転者の注意を喚起する。

親機と子機はいずれも磁石でフォークリフトに貼り付けられ、利用者の状況に応じて設置場所を変えられる。接触を感知する距離は20センチ〜100センチの間で設定可能。

フォークリフトの接触回避のシステムは新製品向けの安全装置として実用化されているが、後付け用の簡易なシステムは珍しい。将来は端末からIoT(モノのインターネッ

ト)でクラウドにフォークリフトの位置情報を送り、接触しやすい危険な箇所を「見える化」することも見据えている。

アイベックは非破壊検査によるインフラやプラントなどの点検業務を手がけており、近年はIoTを活用した技術やサービスの開発

に力を入れている。古いフォークリフトの接触事故による損害に悩む顧客からの要望を受け、同システムの開発を始めた。